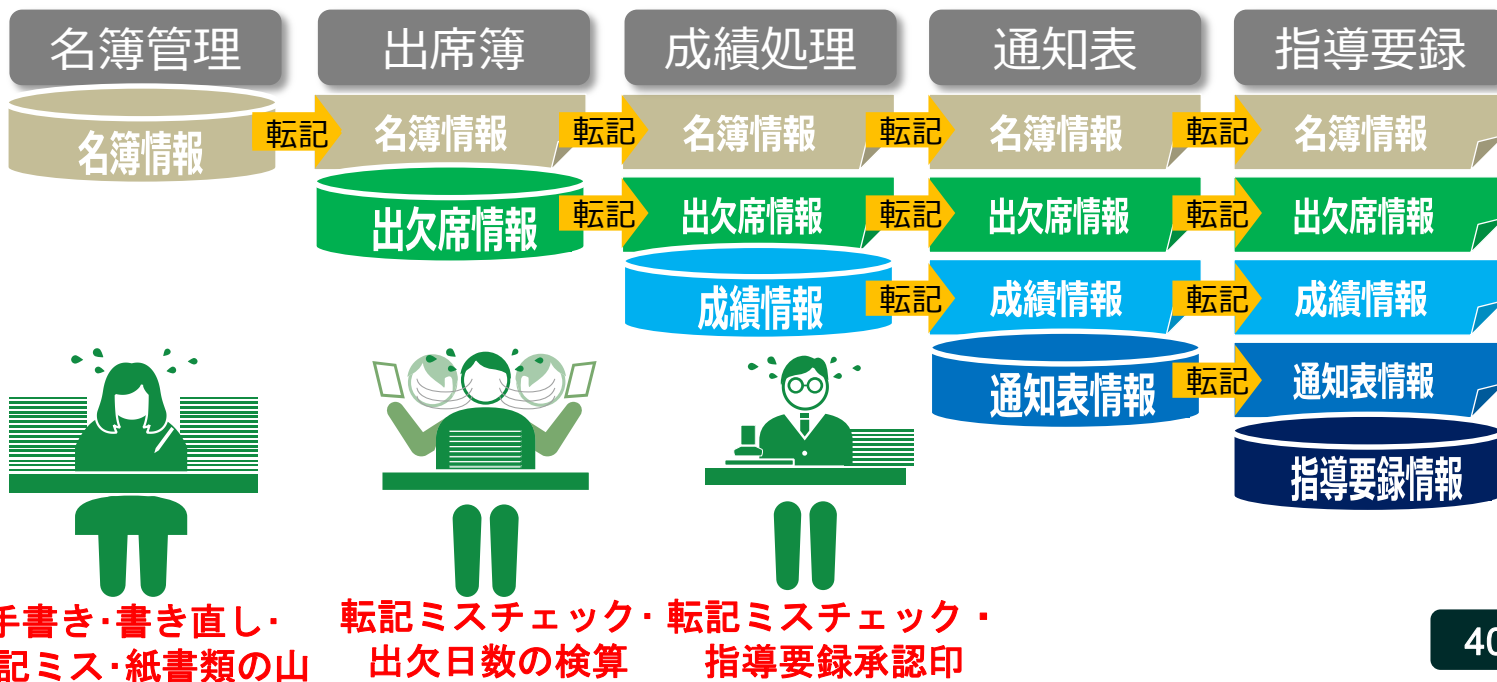


# 校務支援ICT活用事業～校務支援サービス～

- 教員は**手書き**による**精神的なプレッシャー**・**書き直し**・**転記ミス**・**重複**作業による多忙化
- 管理職(教頭・校長)による**誤記**/**転記ミス**/**計算ミスチェック**・大量の紙書類の扱い

Before

課題



- 『入力は一**度だけ**』、転記作業**なし**、**マスターデータを修正すれば関係するシステム**全て**に反映**される『**ワンソース・ワンマスタ**(同じ内容のデータベースを複数もたない)運用』を徹底
- 基本情報となる児童生徒名簿は最新情報(転入・転出処理が反映された)を使って、**各種**公簿類**・**帳票類**に反映**
- 今後新システム、他システムとの校務データ連携により**更なる効率化が**全市的**に可能**

After

名簿管理

名簿情報



出席簿

名簿情報

出欠席情報



成績処理

名簿情報

出欠席情報

成績情報



通知表

名簿情報

出欠席情報

成績情報

通知表情報



指導要録

名簿情報

出欠席情報

成績情報

通知表情報

指導要録情報



解決

※校長の承認印の電子印化  
はH27年度中に実施の予定

# 通知表



回答状況

## 一作成にかかる時間と削減効果

※児童生徒1人分あたりの時間

システム利用前

55.1分

一学期

30.2分

二学期

25.5分

三学期

29.8分

24.9分  
短縮

29.6分  
短縮

25.3分  
短縮

### 【本設問に関する補足】

・小学校と中学校では回答状況に差がある

三学期(平成26年3月)のアンケート結果によると・・・

小学校教諭の平均時間は**38.8分**

中学校教諭の平均時間は**14.7分**

# 校務支援ICT活用事業～コミュニケーションサービス～

- 従来のホームページは更新に**事前申請**手続きが必要な為、**年に数回の更新程度**⇒**年に数回みるホームページ**(静的コンテンツ；学校の沿革・年間行事・学校へのアクセス等)
- 『学校日記』といった**日々更新する内容**(動的コンテンツ；新着情報・緊急のお知らせ)を掲載する**仕組み(機能)なし**

## Before

コンテンツ**更新作業が面倒**

コンテンツ更新を知らせる仕組みがない(**受動的**)

保護者が学校の日々の様子・取り組みが**わからない**

## After

**手軽**に数分で記事更新が可能、『学校日記』等**日々の情報発信が可能**

他サービス『保護者メール送信』と組み合わせて、ホームページの記事**更新をお知らせ・誘導が行える仕組み**がある(**能動的**)

子どもの様子を写真や担任からのコメントで発信したり、校長等の学校経営・教育理念等を紹介することで、**学校の様子がわかる**

# 校務支援ICT活用事業～コミュニケーションサービス～



1日目

更新回数25回



ホームページ開設2か月目に、修学旅行の様子を学校日記に中継。最終日には1日で1147アクセス。

他にも1か月のアクセス総数1万件以上の学校が3校

2日目

更新回数34回



3日目

更新回数33回



グループウェア

## GW・校務支援サービスの利用率

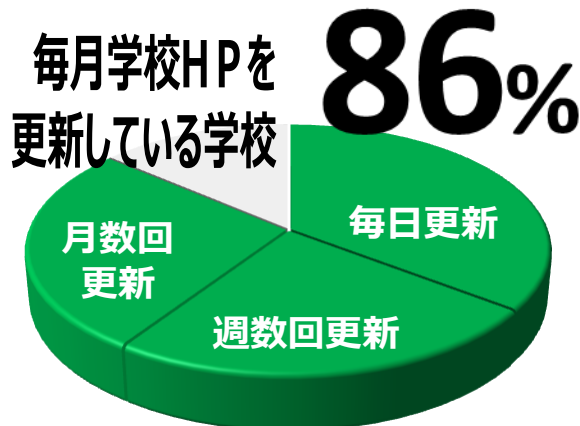
- 試験導入校の展開・定着化は導入3ヶ月で、校長・教頭・教員が100%利用に
- 1.4万人の教職員が繁忙期には校務システムに日に3.4万アクセス



※一人一台PC環境がない為

## ホームページのアクセス数・更新数

- 1年間で全小中学校428校が新ホームページに100%移行完了
- 新機能でブログ型『学校日記』コーナーを毎日更新したり、イベント中継(修学旅行・運動会)や緊急連絡などで鮮度の高い情報発信を強化



tele(離れた場所)work(働く)

## テレワーク・サービスの利用率

- セキュリティ対策を行っているPCからインターネット経由で校務が行えるテレワークサービス(例：自宅PC等)
- USBメモリによる個人情報の持ち帰りをなくし、USBメモリ紛失など、情報漏えいリスクを低減



※半年早くテレワーク展開した試験導入校は34%が利用

# 本事業の一年間の成果

グループウェアと校務支援サービスの導入効果を検証  
試験導入校(小：20校・中学：11校)に  
電子アンケートで **528名** からの回答結果

		教頭	担任
グループウェア		56.0時間	56.0時間
校務支援 サービス	出席簿		4.7時間
	通知表	3.6時間	42.2時間
	日誌/週案	76.7時間	28.0時間
	指導要録1		14.0時間
	指導要録2		23.2時間
校務 効率化時間	年間	136.3時間	168.1時間
	週 換算	2.8時間	3.5時間
	日 換算	34分	42分

教頭(人・年)

136.3時間

クラス担任(人・年)

168.1時間

# 『校務支援ICT活用事業』が導入されて何が変わりましたか

## 小学校 教員

- PC操作が必要のため、結果的にICTスキルが向上している
- 週案は時数計算が不要になり楽になった

## 小学校 CIO

- 保護者に信頼される通知表作り、これ迄以上に注力
- GwIに職員朝礼資料をアップすることで、準備が効率化された

## 小学校 教頭

- 通知表の所見・評定の転記ミスはチェックが不要、一覧表での確認で済むので大幅な効率化と時間に縛られにくい状態に

## 小学校 校長

- ファイルサーバー利用によりUSBメモリの利用が激減している  
⇒ ウイルス感染や個人情報漏洩リスクの低減につながっている

## 中学校 教員

- 机の上に山積みだった紙書類が減った
- 仕事にスピード感が出てきた、保護者対応に時間を割けた

## 中学校 CIO

- 行事の企画・運営に時間をかけられるようになった
- 情報の共有化が自校内・他校間でも容易になった

## 中学校 教頭

- 出欠簿・週案等の計算ミスのチェック作業がまるまるなくなった
- 残業はあまり減っていないが校務の効率化は確実にできた

## 中学校 校長

- ホームページが簡単に更新できるようになったので、保護者への情報発信が強化され、保護者の学校理解が促進されている





『校務効率化時間



』を何に使いますか？



小学校**教員**



中学校**教員**



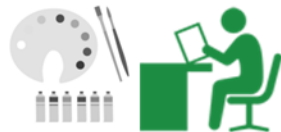
授業準備（教材研究）にかける時間を増やすこと



子どもとふれ合う時間を増やすこと(放課後の補習)



子供の作品やノートを見る時間を増やしたい



部活動の指導にあたる時間を増やすこと




『校務効率化時間


135.3 時間/年  
188.1 時間/年

』をどう思いますか？


小・中学校 **教員**

- システムを活用する事で教育本来の活動ができるようになった
- 全ての数値において、**まだまだ**校務効率化がはかれると思う
- GW・校務支援サービス・学校ホームページを**満遍なく、使いこなしたい/使いたおしたい**  
⇒今は使う機能に偏りがある 

小・中学校 **教頭**

- 数値以上にも**もっと**効果がでているというのが実感
- 出席簿の月末集計点検作業等は翌日には教員に返さないといけな  
いと**いったラッシュア**があった。
- 今ではこの様なことがないので**精神的にも時間で計れない効果**がある 

小・中学校 **校長**

- 「**出席簿**」や「**いいとこみつけ(所見入力)**」などは教室で作業するのが普通である。ということは、**教室にも**、職員室と同じ機能が利用できる**端末を配備す**べきである
- 試験導入校で2年目となり、以前と比べて**更に校務効率化**がきている 

## 3-2. 今後の展望

# 今後の展望

試験導入校  
31校

全校458校

**点**から**面**への発展・拡充・向上

## 施策 1

### ●事務負担の軽減、ICTリテラシーの向上

ー試験導入校の成果を全校458校1.66万人に発展・拡充

## 施策 2

### ●情報発信機能の更なる向上

ー学校ホームページの充実、保護者・市民への積極的な情報発信

## 施策 3

### ●情報セキュリティの向上

ーUSBメモリによる個人情報の持ち出し禁止、テレワークの利用促進

## 施策 4

### ●知見の共有

ーグループウェア・学校共用フォルダの効果的な活用による情報共有  
ー教育版「熟議サイト」の新設による学校業務の改善

# 教育情報化のステップ

無駄のない合理的な投資手順でもあり、学校現場として一番効果的な教育情報化手順は、まず「校務ICT化（GW+CM）」で『効率化』『情報共有』を実現し、教育ICT化に向けた時間の捻出、次に『さらなる効率化』『情報活用』で教育ICT化を推進し『教育の質向上』『学力の向上』という最終ゴールをめざしたいと考えています。

## 段階的な教育情報化が学校・先生にはもっとも重要かつ合理的なやり方

校務ICT化  
グループウェア  
コミュニケーション

校務ICT化  
成績処理  
通知票作成

校務/教育ICT化  
教室でタブレット校務

教育ICT化  
電子黒板  
デジタル教科書  
指導者用・  
学習者用  
デジタル教材

教育ICT化  
学習者用  
デジタル教科書  
・一人一台端末